

総務省は21日、2022年の就業構造基本調査結果を発表し、女性の就業率が53・2%と、17年の前回調査から2・5%上昇し、過去最高を更新しました。未就学児の子育てをしている男女に占める就業者の割合も85・2%と過去最高となりました。同省は、時短勤務など育児と仕事の両立に向けた制度活用が進みつつあることが背景にあるとみています。

調査は5年ごとに実施。全国約54万世帯の15歳以上の約1,08万人を対象に昨年10月1

## 女性の就業率、過去最高

総務省調査 介護・看護離職は増

日現在の就業形態などについて調べ、全体の状況を推計しました。  
就業者数は男女合計で6706万人で、うち女性は3035万4000人。合計と女性の人数はともに過去最高でした。男性は3670万6000人で前回から微減。女性の25歳39歳の就業率は81・5%と、初めて8割を超えた。出産や育児のため過去1年間に離職した人数は、前回から6万7000人減った。14万8000人でした。

「ロナ福」や「働き方改革」を踏まえ、テレワークの状況を初めて調査。1年間のうちテレワークを実施した人は1265万人で、就業者の19・1%を占めました。実施頻度は年間の「20%未満」が654万人で最も多く、次いで「80%以上」が226万人と、二極化傾向が見られました。

一方、介護や看護のため離職した人は70人。